平成１９年度

第１回

（集団研修）

自然公園の管理・運営と利用（エコツアー）
実施要領

平成１９年９月

独立行政法人国際協力機構（JICA）

Japan International Cooperation Agency

目　　次

1.　コース基本情報 …… 1

2.　コースの目的 …… 1

3.　到達目標 …… 1

4.　研修プログラム …… 2

5.　研修員参加資格要件 …… 3

6.　研修実施体制及び運営 …… 3

7.　研修の評価 …… 4

8.　研修付帯プログラム …… 5

9.　研修・宿泊場所 …… 6

10.　その他 …… 6

付　属　資　料

付表－１　研修員の業務関連情報

付表－２　研修カリキュラム

付表－３　平成 19 年度日程表（案）

付表－４　年度別受入実績表

1.　コース基本情報

⑴　コース名

和文：（集団）自然公園の管理・運営と利用（エコツアー）

英文：Group Training Course in Management of Eco-Tourism and Sustainable Use of Natural Parks

⑵　受入期間

平成 19 年 9 月 17 日（月）～平成 19 年 11 月 3 日（土）

⑶　技術研修期間

平成 19 年 9 月 25 日（火）～平成 19 年 11 月 1 日（木）

⑷　定員、割当国

定　員：７名

割当国：９ヶ国
ガーナ、キリバス、ラオス、レソト、メキシコ、パレスチナ、
サウジアラビア、ニウエ、スリナム　（下線は受入国）

2. コース目的

自然環境及び自然公園の管理・運営と利用において、国際環境法の理念に基づき、自国の自然環境保全と資源の賢明な利用について意識を高め、普及啓発を促進できる人材を育成する。

3.　到達目標

⑴　自然環境の保全や自然資源の管理と賢明な利用及び地域づくりに対する日本の理念・体系を理解する。

⑵　エコツーリズムの理念・体系・手法を理解すると共に、国際環境法と連携した自国に適したプランを策定できる。

⑶　環境教育の重要性を理解し、地域づくりと連携した自国に適したプランを策定できる。

4.　研修プログラム

⑴　研修内容

来日後一週間のオリエンテーションの後、帰国までの期間、研修を実施する。主に講義、実習、視察、討論から構成される。

ア.研修カリキュラム（付表-2 参照）

イ.ジョブレポート発表会（Job Report Presentation）

(ｱ) 目的

a. 研修員自身が問題点を再認識する

b. 研修員相互間で問題意識を共有する

c. 講師が研修員の業務内容、研修で習得したい技術・知識を理解する

これらの発表を通じ、講師より個々の研修員の期待に対してこの研修でできることできないことを明確に示す意見交換の場とする。

(ｲ) 発表内容

J/R 発表会において、各研修員は以下の３点について主に発表する

a. 自国でどのような仕事に従事しているのか

b. その仕事において現在どのような問題を抱えているか

c. この研修の中で習得したい技術、知識

ウ. アクションプラン発表会（Action Plan Presentation）

(ｱ) 目的

a. 研修員が帰国後に取り組むべき課題を明確にする

b. 可能な計画の立案能力向上

c. 研修結果の資料として利用する

(ｲ) 発表内容

J/R で提言した問題点、また、研修中に新たに想定された問題点の解決のためのプロジェクトの計画を策定し、その目標達成のための活動計画（アクションプラ

ン）を発表する。(A/P の必要記載事項として、プロジェクトタイトル、解決すべき問題とそれに対するプロジェクト目標、期間、場所、事業主体、活動内容など、についての記述を求める)

⑵ 使用言語　　英語

5.　研修員参加資格要件

当該コースに関わる General Information 記載条件

⑴ 自然公園の管理・運営及び、自然保護、環境教育の普及啓発を担当する中堅職員。

⑵ 当該分野で２～３年の経験がある者。

⑶ 年齢 28 歳以上 38 歳以下であること。

⑷ ハードなフィールド研修のできる体力があり、心身ともに健康で、女性については妊娠していない者。

各コース資格要件

⑴ 所定の手続により割当国政府から推薦されていること

⑵ 充分な英語能力を有すること

⑶ 軍隊に服役していないこと

6.　研修実施体制及び運営

本研修コースは、コースリーダーの助言のもと、独立行政法人国際協力機構帯広国際センター（以下、JICA 帯広）が計画する研修コースの実施に関する業務を、釧路国際ウェットランドセンター（以下、KIWC）に研修に委託し、関係諸機関の協力により実施・運営するものとし、具体的業務分担は次のとおりとする。

⑴ JICA 帯広

ア. 研修実施計画書作成（コース目的、到達目標、研修期間など）

イ．研修の評価

ウ．研修実施予算の執行管理

エ．募集要項（G.I.）及び研修実施要領等の作成

オ．その他

⑵ KIWC

ア．研修日程表の調整・作成

イ．講師、見学先等への連絡・確認

ウ．テキスト、資料等の手配

エ．その他

⑶ コースリーダー

研修の計画、実施、評価の全般にわたる技術的助言等

⑷ 研修監理員（Coordinator：CDN）

技術研修期間中、㈶日本国際協力センター（JICE）所属の研修監理員（CDN）を配置し、コース実施・運営の円滑・調整を図る。

ア．研修に係る関係者間の連絡調整

イ．通訳業務

ウ．その他

7. 研修の評価

⑴ 評価の目的

研修コースの到達目標（１頁参照）に基づき、研修成果の測定、分析を通じてコース終了時に、当初目標の達成度を確認する。また、今後の研修で改善すべき点をあげ、本コースの研修内容の質的改善を図るものとする。

⑵ 評価の方法

ア．コースリーダー等による個々の研修員の到達目標の達成度把握

イ. 個々の研修員による評価（Questionnaire）

ウ. JICA による評価

⑶　評価会

研修終了時に研修員が提出する Questionnaire（JICA 所定の様式による質問書）の記載事項の確認を中心とした評価会を実施する。

⑷　改善検討会

研修員の帰国後に、評価結果に基づき JICA、コースリーダー、KIWC が参加し、研修の目的・内容、プログラム構成、指導方法等について協議し、翌年度のコース改善に向けて対応方針を検討する。

8.　研修付帯プログラム

⑴　ブリーフィング

研修員来日直後に、JICA 帯広において実施する。ブリーフィングでは、JICA の業務概要説明及びコース概要、研修員登録、パスポートビザの有効期間確認、支給される諸手当の説明等のほか、日常生活を送る上での諸注意を行う。

⑵　ジェネラルオリエンテーション

JICA 帯広にて実施し、日本の社会・歴史・文化・政治・経済・教育などの日本事情の紹介を目的とする。

⑶　日本語講習

研修員は、研修のみならず国際交流事業に役立てるよう、簡単なあいさつ程度の語学力修得を目的として１０時間の日本語講習を実施する。

ブリーフィング・ジェネラルオリエンテーション・日本語講習日程

日　　程	内　　容
9月18日（火）	ブリーフィング
9月19日（水） 午前 午後	ジェネラルオリエンテーション 講義「日本の社会と日本人」 講義「日本の経済」
9月20日（木） 午前 午後	ジェネラルオリエンテーション 講義「日本の教育」 講義「日本の政治、行政」「日本の歴史・文化」
9月21日（金）	日本語講習
9月22日（土）	日本語講習

9.　研修・宿泊場所

独立行政法人国際協力機構帯広国際センター（JICA帯広）
所在地：〒080-2470　北海道帯広市西20条南６丁目１番地２
Tel（0155）35-2001　　Fax（0155）35-2213

釧路ロイヤルイン
所在地：〒085-0018　北海道釧路市黒金町１４丁目９番２号
Tel（0154）31-2121　Fax（0154）31-2122

10.　その他

⑴　修了証書

この研修を修了した研修員にJICAから修了証書(Certificate)を授与する。

⑵　研修員の待遇

ア．入国資格

日本で技術研修を受けるために来日する者は研修ビザを取得し、日本滞在中は日本

国法規の適用を受ける。

イ. 滞在費

JICA の規程に基づき、本コースの研修を受けるために必要な手当が支給される。

⑶ 開発教育支援

「開発教育」とは、開発途上国の文化、社会、人々の暮らし、日本との関係などを知ることによって開発途上国に関心を持ち、「貧困問題」や「環境問題」など地球全体の構造的な問題を自分の問題としてとらえ、解決のために自ら行動することが必要であるという認識を広めることを目的として小･中学校の教育現場で実施されている。JICA はこの「開発教育」の支援に力を入れており、本研修コースの中に、地域の小・中学校や地域住民との相互理解のためのプログラムが含まれている。

独立行政法人国際協力機構　帯広国際センター
〒080-2470　帯広市西２０条南６丁目１番地２
TEL：0155-35-1210　FAX：0155-35-1250
URL：http://www.jica.go.jp/worldmap/hokkaidou.html#obihiro

平成19年度（集団）「自然公園の管理・運営と利用（エコツアー）」研修カリキュラム表

コース目的：自然環境及び自然公園の管理・運営と利用において、国際環境法の理念に基づき、自国の自然環境保全と資源の賢明な利用について意識を高め、普及啓発を促進できる人材を育成する。

項目	科　目	講義	実習	視察	担当講師	講義目的	講義内容
到達目標1：自然環境の保全や自然資源の管理と賢明な利用及び地域づくりに対する日本の理念・体系を理解する。							
日本の体系・理念	日本における国立公園の管理・運営	2.0			(財)自然公園財団 森　孝順　事務局長	日本の国立公園の管理運営法について学ぶ	国立公園の概要、管理手法など
湿地保全	湿地のモニタリングと普及啓発 （キラコタン岬）		5.0		釧路国際ウェットランドセンター 新庄　久志　主幹	保護区における湿地モニタリング手法について学ぶ	国立公園内での湿地モニタリング
日本の体系・理念	日本のエコツーリズム施策	2.0			環境省自然環境局ふれあい推進室	日本のエコツーリズム普及施策について学ぶ	エコツーリズム普及国内施策など
到達目標2：エコツーリズムの理念・体系・手法を理解すると共に、国際環境法と連携した自国に適したプランを策定できる。							
エコツーリズム手法	エコツアーにおける施設の活用 （十勝千年の森）			3.0	釧路国際ウェットランドセンター 新庄　久志　主幹	地域産業を活用したエコツーリズムについて学ぶ	観光・体験型農園経営の事例
エコツーリズム手法	エコツアープログラム （楽器作りとリバーウォッチング）		5.0		然別湖ネイチャーセンター	自然資源の賢明な利用手法について学ぶ	自然の素材を生かした土笛製作と箱メガネによる河川観察
エコツーリズム手法	エコツアープログラム （シーカヤックとネイチャーハイク）		5.0		然別湖ネイチャーセンター	自然環境を生かしたエコツアープログラムについて学ぶ	シーカヤックおよびハイキングによる自然観察
エコツーリズム手法	エコツアープログラム （ダッチオーブン）		2.5		然別湖ネイチャーセンター	地域環境を生かしたエコツアープログラムについて学ぶ	地元食材を活用したエコツアープログラム事例
エコツーリズム手法	遊歩道の設置と活用（温根内・北斗）		2.5	2.5	釧路国際ウェットランドセンター 新庄　久志　主幹	自然環境を生かした遊歩道の設置について学ぶ	湿原に面した丘陵地における遊歩道設置事例
エコツーリズム手法	地域を生かしたエコツアープログラム （ホースバックハイク）		5.0		鶴居どさんこ牧場 川崎　秀夫　指導員	地域を生かしたエコツアープログラムについて学ぶ	地域の産業と連携したエコツアープログラム事例
資源の利用	地域における普及啓発 （細岡ビジターズラウンジ）		2.5		細岡ビジターズラウンジ 渡辺　寿　館長	自然資源の有効利用について学ぶ	端材を活用したエコツアープログラム事例
エコツーリズム手法	野生生物の保護とエコツアー （別寒別牛川カヌー）		4.0		釧路国際ウェットランドセンター 新庄　久志　主幹	タンチョウの保護に配慮したカヌー運営について学ぶ	野生生物生息地におけるエコツアープログラム事例
エコツーリズム手法	地域におけるエコツーリズムの取り組み （霧多布湿原トラスト）	1.0	4.0		霧多布湿原トラスト	地域を生かしたエコツアープログラムについて学ぶ	湿地・海辺環境を活用したエコツアープログラム事例
普及啓発	地域住民のための普及啓発 （湖沼のカヌーと自然観察）		4.0		釧路国際ウェットランドセンター 新庄　久志　主幹	地域住民への普及啓発を目的とするエコツアーについて学ぶ	湖の環境を活用したエコツアープログラム事例
普及啓発	国立公園の普及啓発			2.0	川湯エコミュージアムセンター	国立公園における普及啓発活動について学ぶ	環境教育・エコツアープログラムの運営
エコツーリズム手法	世界自然遺産におけるエコツアーの取組み （知床国立公園）	1.0	5.0		知床ネイチャーオフィス 荒井　加奈子	自然公園におけるプログラムを学ぶ	自然公園とエコツアープログラム事例
資源の利用	エコツアーフィールドの開発 （羅臼湖）		3.5	1.5	釧路国際ウェットランドセンター 新庄　久志　主幹	山岳湿地の活用と普及啓発について学ぶ	羅臼湖トレッキングと普及啓発施設の視察
エコツーリズム手法	河川におけるエコツアープログラム （釧路川）		4.0		釧路国際ウェットランドセンター 新庄　久志　主幹	河川におけるエコツアープログラムについて学ぶ	ラフティングボートを活用したエコツアープログラム
資源の利用	文化・史跡遺産とエコツアー （平安神宮）			2.5	釧路国際ウェットランドセンター 新庄　久志　主幹	史跡を生かしたエコツアープログラムについて学ぶ	平安神宮庭園とエコツアープログラム
資源の利用	文化・史跡遺産とエコツアー （京都人力車）			2.5	釧路国際ウェットランドセンター 新庄　久志　主幹	伝統的道具を生かしたエコツアープログラムについて学ぶ	人力車とエコツアープログラム
資源の利用	文化・史跡遺産とエコツアー （川下りとトロッコ列車）		5.0		釧路国際ウェットランドセンター 新庄　久志　主幹	地域環境を生かしたエコツアープログラムについて学ぶ	地域におけるエコツアープログラム
エコツーリズム理念	エコツーリズム総論	3.5			酪農学園大学 マーク・ブラジル　教授	エコツーリズムの理念について学ぶ	エコツーリズムの理念と事例
到達目標3：環境教育の重要性を理解し、地域づくりと連携した自国に適したプランを策定できる。							
環境教育	湿地保全にかかわる地域の取り組み	2.5			釧路国際ウェットランドセンター 新庄　久志　主幹	地域におけるエコツーリズム運営について学ぶ	地域で運営されるエコツアープログラム事例
環境教育	地域における環境教育の取組み （蕃屋エコツアー）		5.0		霧多布湿原センター	地域のおける普及啓発の取り組みについて学ぶ	環境教育プログラムの構築
環境教育	野生生物の保護と環境教育 （タンチョウ紙飛行機づくり）		2.0		厚岸水鳥観察館 澁谷　辰生　専門員	環境教育プログラムについて学ぶ	参加する環境教育プログラムの構築
環境教育	国立公園における普及啓発		2.0		塘路湖エコミュージアムセンター 牛崎　方恵　指導員	エコツアーを通じた環境保全教育プログラムについて学ぶ	国立公園内での環境教育事業
環境教育	野生生物保護と普及啓発 （阿寒国際ツルセンター）			2.0	釧路国際ウェットランドセンター 新庄　久志　主幹	野生生物保護のための普及啓発・環境教育について学ぶ	タンチョウ保全のための普及啓発・環境教育プログラム事例
その他							
	コースオリエンテーション	2.0			新庄久志コースリーダー	研修コース概要説明、研修員に求められることを説明する	
発表会	ジョブレポート発表会		2.5			研修員各自の業務内容、抱える問題、研修に求める事など関係者が互いに理解する	
発表会	アクションプラン発表会		2.5			本研修を活かした帰国後のアクションプランを通して理解度を測る	
開発教育支援	学校訪問（開発教育）		5.0			開発教育支援として日本の小中学校を視察し、交流する	
	（小計）	14.0	76.0	16.0		総計 106.0	

平成19年度（集団）「自然公園の管理・運営と利用（エコツアー）」研修日程（案）

月　日	曜日	前／後	プログラム	担当	会場	宿泊地
9月17日	月	来　日				帯広
9月18日	火	終日	JICAブリーフィング			帯広
9月19日	水	終日	ジェネラルオリエンテーション			帯広
9月20日	木	終日	ジェネラルオリエンテーション			帯広
9月21日	金	終日	日本語講習			帯広
9月22日	土	終日	日本語講習			帯広
9月23日	日	休　日				帯広
9月24日	月	休　日				帯広
9月25日	火	午前	プログラム・カリキュラムミィーティング	OBIC・KIWC	OBIC	帯広
		午後	ジョブレポート発表会	OBIC・KIWC	OBIC	
9月26日	水	午前	湿地保全にかかわる地域の取組	KIWC	OBIC	帯広
		午後	エコツアーにおける施設の活用	KIWC	十勝千年の森	
9月27日	木	終日	移動：帯広→然別　エコツアープログラム（森の音つくりとリバーウオッチング）　然別ネイチャーセンター			然別
9月28日	金	終日	自然公園のエコツアープログラム（シーカヤックとハイキング）　然別ネイチャーセンター			然別
9月29日	土	午前	自然公園のエコツアープログラム（ダッチオーブン）　然別ネイチャーセンター　移動：然別→帯広			帯広
		午後	休　日			
9月30日	日	休　日				帯広
10月1日	月	移動：帯広→釧路				釧路
10月2日	火	終日	野生生物保護と普及啓発　KIWC　阿寒国際ツルセンター　釧路市長表敬			釧路
10月3日	水	終日	遊歩道の設置と活用	KIWC	釧路湿原展望台・温根内遊歩道	釧路
10月4日	木	終日	湿地のモニタリングと普及啓発	KIWC	釧路湿原キラコタン岬・コッタロ	釧路
10月5日	金	午前	国立公園における普及啓発	塘路湖エコミュージアムセンター	塘路湖エコミュージアムセンター	釧路
		午後	地域における普及啓発	渡辺　寿（別保コミュニティセンター）	細岡ビジターズラウンジ	
10月6日	土	午前	地域住民のための普及啓発（湖沼のカヌー）	KIWC	塘路湖畔湧水地	釧路
		午後	休　日			
10月7日	日	休　日				釧路
10月8日	月	午前	移動：釧路→厚岸　野生生物保護とエコツアー（別寒辺牛川カヌー）　曙カヌー		厚岸湖・別寒辺牛川	厚岸
		午後	野生生物保護と環境教育（ペーパークラフト	渋谷　辰生（厚岸水鳥観察館）		
10月9日	火	終日	移動：厚岸⇔浜中　遊歩道の設置・エコツアーの施設展示（霧多布湿原トラスト・湿原センター）移動：浜中→厚岸			厚岸
10月10日	火	終日	移動：厚岸⇄浜中　地域におけるエコツーリズムの取組（ケンボッキ島）　霧多布湿原トラスト			厚岸

10月11日	水	終日	移動：厚岸→浜中　地域における環境教育の取組（番屋エコツアー）　霧多布湿原センター 移動：浜中→釧路			釧路
10月12日	金	終日	移動：釧路⇄鶴居村　地域を生かしたエコツアープログラム（どさんこ牧場・ホースハイク）　鶴居どさんこ牧場			釧路
10月13日	土	午後	ホームビジット	KIWC		釧路
10月14日	日	休　日				釧路
10月15日	月	終日	移動：釧路→川湯　国立公園の普及啓発（川湯エコミュージアムセンター）　川湯エコミュージアムセンター・KIWC　移動：川湯→宇登呂			宇登呂
10月16日	火	終日	世界自然遺産におけるエコツアーの取組（知床国立公園）　知床ネイチャーオフィス		知床国立公園	宇登呂
10月17日	水	終日	エコツアーフィールドの開発（羅臼湖、羅臼エコミュージアムセンター）		知床国立公園	宇登呂
10月18日	木	終日	移動：宇登呂→川湯　河川におけるエコツアープログラム（釧路川ラフティング）自然塾　移動：川湯→釧路			釧路
10月19日	金	午前	エコツーリズム総論	マーク・ブラジル（酪農学園大学）	釧路市交流プラザさいわい	釧路
		午後	アクションプラン作成指導			
10月20日	土	移動：釧路→東京				東京
10月21日	日	休　日				東京
10月22日	月	午前	日本における国立公園の管理・運営	森　孝順（自然公園財団）	TIC	東京
		午後	日本におけるエコツーリズム施策	環境省自然環境局ふれあい推進室	TIC	
10月23日	火	移動：東京→ 大阪（茨木）				京都
10月24日	水	終日	移動：大阪（茨木）⇄京都（東山）　文化史跡とエコツアープログラム（平安神宮神苑と京都人力車）　えびす屋・KIWC			京都
10月25日	木	終日	移動：大阪（茨木）⇄京都（嵯峨嵐山）地域とエコツアープログラム（トロッコ列車と保津川下り）保津川遊船組合・KIWC			京都
10月26日	金	休　日 フリー				京都
10月27日	土	移動：京都→釧路				京都
10月28日	日	休日				釧路
10月29日	月	JICA学校訪問				釧路
10月30日	火	アクションプラン発表準備				釧路
10月31日	水	アクションプラン発表会、評価会		OBIC・KIWC	釧路市交流プラザさいわい	釧路
11月1日	木	閉講式・市民交流会		OBIC・KIWC	釧路市交流プラザさいわい	釧路
11月2日	金	移動：釧路→東京				東京

年 度 別 受 入 実 績 表

1．応募／選定（受入）人数

	19年度	累計
応　募　数	15名	15名
受　入　数	7名	7名

2．研修員の出身国　　○男性　●女性

国　　名	19年度	累計
（アジア全域）		
ラオス	○●	2名
（中南米地域）		
メキシコ	●●	2名
（アフリカ地域）		
ガーナ	○	1名
レソト	○	1名
（大洋州地域）		
キリバス	●	1名
計	5ヶ国 7名	5ヶ国 7名